

「子どもが作る弁当の日」の取組みについて

資料6

●『弁当の日』とは・・・

2011年、香川県の小学校で竹下和男校長（当時）が始めた『弁当の日』。

子どもが自分でお弁当を作って学校に持ってくるという取り組みです。

何を作るか決めることも、買い出しも、調理も、弁当箱に詰めるのも、片付けも子どもがします。

親も先生も、その出来具合を批評も評価もしません。

●子どもが作る『弁当の日』の効果

子ども達は自分でお弁当を作る取り組みを通じ、感謝の心を知り、自己肯定感が育まれています。また、失敗の中から多くを学び、生きる力を身につけています。

大人たちは見守る大切さを知り、子どもの成長を通じて子育てが楽しいと思えるようになっていきます。

家族だんらんが増え、家庭に笑顔があふれるようになっていきます。

このような好循環が『弁当の日』を通じて全国に広がりはじめています。

●嬉野市の取り組み

嬉野市では食育推進会議での提案を契機に、平成27年度から子どもが作る『弁当の日』への取り組みを推進しています。

平成27年度から、ふれあい弁当の日には、市内の小学校全校で子どもが作る『弁当の日』が実施されています。

【取り組みの様子】

